

第7回 大阪蘇生アカデミー

病院前救急医療体制の課題と展望



日時

2019年12月5日（木）
9:30～17:30（開場9:00）

場所

大阪府立男女共同参画・
青少年センター
（ドーンセンター）7階

定員

500名（参加無料）

申込

QRコードまたはURL
よりお申込み
ください。



第一部

9:30～12:30

病院外心停止記録活用研究会

『病院外心停止における
医師現場派遣の展望』

第二部

14:00～17:40

特別講演

『除細動を30秒でも早く：
10分で消える命』

国家公務員共済組合連合会立川病院病院長
三田村 秀雄

https://osakalifesupport.or.jp/resuscitation_acad/contact.html

主催：NPO大阪ライフサポート協会

共催：大阪医科大学 救急医学教室

大阪市立大学医部附属病院 救命救急センター

大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター

関西医科大学附属病院 高度救命救急センター

京都大学環境安全保健機構附属 健康科学センター

後援：大阪府・大阪府下消防長会

病院外心停止記録活用研究会 プログラム

時間	内容
9:30-9:35	開会 近畿大学 IRセンター・大学院医学研究科救急医学 教授 平出 敦
	座長：岐阜大学医学部附属病院 高次救命治療センター 併任講師 名知 祥 国立循環器病研究センター 心臓血管内科部門心臓血管系集中治療科 医長 田原 良雄
	コメンテータ 総務省消防庁消防・救急課 救急専門官 小谷 聡司
	講演1「病院前高度気道確保の有効性と蘇生時間バイアス」
	演者：沖縄県立八重山病院 内科 医長 井澤 純一
	講演2「救急隊到着時の自己心拍確認の意義と気道管理 -SOS-KANTO2012データより-」
9:35-11:05	演者：日本大学医学部 救急医学系救急集中治療医学分野 臨床教授 櫻井 淳
	講演3「『心停止の原因を見抜けなければ医師現場派遣の価値はない。』 ～迅速かつ適切な介入により病院前での自己心拍回復に導く～」
	演者：前橋赤十字病院 集中治療科・救急科 副部長 町田 浩志
	講演4「医師が現場ですべきことは～船橋市ドクターカーの試み～」
	演者：船橋市立医療センター 救命救急センター 副部長 蘇我 孟群
	講演5「千里救命救急センタードクターカーの現状と課題」
	演者：大阪府済生会千里病院 千里救命救急センター センター長 林 靖之
11:05-11:30	休憩
11:30-12:30	総合討論
12:30	閉会 京都大学環境安全保健機構附属健康科学センター 教授 川村 孝

大阪蘇生アカデミー プログラム

時間	内容
14:00-14:05	開会 京都橘大学 健康科学部 教授 西本 泰久
14:05-14:25	教育講演1 「その救急活動『見える化』してみませんか？ - 救命率を高めるための10 steps-」 座長：大阪市消防局 救急部 救急課 副課長 林田 純人 演者：京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻クリティカルケア看護学分野 准教授 西山 知佳
14:25-15:15	特別講演「除細動を30秒でも早く：10分で消える命」 座長：京都大学環境安全保健機構附属健康科学センター 教授 石見 拓 大阪府 政策企画部危機管理室消防保安課 課長補佐 松野 亨 演者：国家公務員共済組合連合会 立川病院 院長 三田村 秀雄
15:15-15:30	休憩
15:30-16:10	教育講演2「大阪救急症例帖2019」 演者：京都大学環境安全保健機構附属健康科学センター 特定助教 木口 雄之 大阪警察病院 ER・救命救急科 医長 廣瀬 智也
16:10-16:25	休憩
16:25-17:35	Pro/Conディベート「救急隊によるDNARオーダーを用いた蘇生中止は可能である」 座長：大阪市立大学医学部附属病院 救命救急センター 准教授 西村 哲郎 コメンテータ： 総務省消防庁消防・救急課 救急専門官 小谷 聡司 事例提示：守口市門真市消防組合消防本部 警備課 防災救急係 防災救急係長 助野 具代 演者： Pro)りんくう総合医療センター 大阪府泉州救命救急センター 理事・副病院長・救急診療部長 松岡 哲也 Con)大阪市立大学大学院医学研究科 救急医学 教授 溝端 康光
17:35-17:45	心停止サバイバーからのコメント 司会：大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター 助教 入澤 太郎
17:45	閉会 大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター 教授 嶋津 岳士

第7回 大阪蘇生アカデミー開催概要

テーマ:病院前救急医療体制の課題と展望

開催日:2019年12月5日(木)

会場:大阪府立男女共同参画・青少年センター(ドーンセンター) 7階 ホール

内容:

教育講演1では、京都大学大学院人間健康科学専攻の西山知佳先生から「その救急活動見える化してみませんか?~救命率を高めるための10steps~」について講演があった。シアトルで実践されている院外心停止に対する病院前救急医療体制の評価について紹介があった。日本でも同様に病院前救急医療体制の評価とその問題点の可視化についての必要性が提示された。

特別講演として、国家公務員共済組合連合会立川病院の三田村秀雄先生をお招きし、「除細動を30秒でも早く:10分で消える命」と題して、迅速な胸骨圧迫、除細動を教育する重要性についてご講演いただいた。

教育講演2では、毎年好評の聴衆参加型の教育講演として「大阪救急症例帖2019」について京都大学健康科学センター木口雄之先生・大阪警察病院廣瀬智也先生から発表があった。救急隊の現場のPitfallとtipsについて提示いただいた。

Pro/Con デイバートでは『救急隊によるDNARオーダーを用いた蘇生中止は可能である』と題したPro/Con デイバート型のシンポジウムを行った。

座長:大阪市立大学医学部附属病院 救命救急センター	西村 哲郎 先生
事例提示:守口市門真市消防組合消防本部	助野 具代 氏
Pro)りんくう総合医療センター 大阪府泉州救命救急センター	松岡 哲也 先生
Con)大阪市立大学医学部附属病院 救命救急センター	溝端 康光 先生

救急隊が傷病者に接触した現場において医師の事前指示や家族の希望に基づき蘇生を行わない選択について、それぞれ事例提示を行い課題のディスカッションをおこなった全体を通して、消防庁救急専門官の小谷聡司先生にコメンテーターとして多くのご発言ご意見をいただいた。

成果:

医師、看護師、救急救命士など様々な職種から286人と多数の参加をいただいた。「病院前救急医療体制の課題と展望」というテーマのもと、救命救急における最新の知見を共有すると共に、行政、病院、消防と異なる立場から救急現場のプロトコルについて活発な意見交換をおこなった。アンケートの結果から、多くの参加者が本会に満足し、次回開催を期待している事を窺い知ることができた。

<主催> 特定非営利活動法人 大阪ライフサポート協会

<後援> 大阪府、大阪府下消防長会

<共催> 大阪医科大学 救急医学教室

大阪市立大学医部附属病院 救命救急センター

大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター

関西医科大学附属病院 高度救命救急センター

京都大学 環境安全保健機構 附属健康科学センター

<協賛>

(順不同) 株式会社フィリップス・ジャパン、日本光電工業株式会社、日本メディカルネクスト株式会社、株式会社 CU、株式会社ジェイ・エム・エス、旭化成ゾールメディカル株式会社、オムロンヘルスケア株式会社、レールダルメディカルジャパン株式会社、株式会社アレクソン、浜松ホトニクス株式会社、アイ・エム・アイ株式会社、コーケンメディカル株式会社、株式会社ドーン、ジーエムメディカル株式会社、三和製作所、テルモ株式会社、エドワーズライフサイエンス株式会社、株式会社アクティブメディカル、株式会社グッドケア

連絡先

(住所) 〒533-0033 大阪府大阪市東淀川区東中島 1-17-5 ス튜디오新大阪 416 号

(氏名) 定非営利活動法人 大阪ライフサポート協会 事務局

(電話・FAX番号) TEL : 06-6370-5883 FAX : 06-6370-5884

